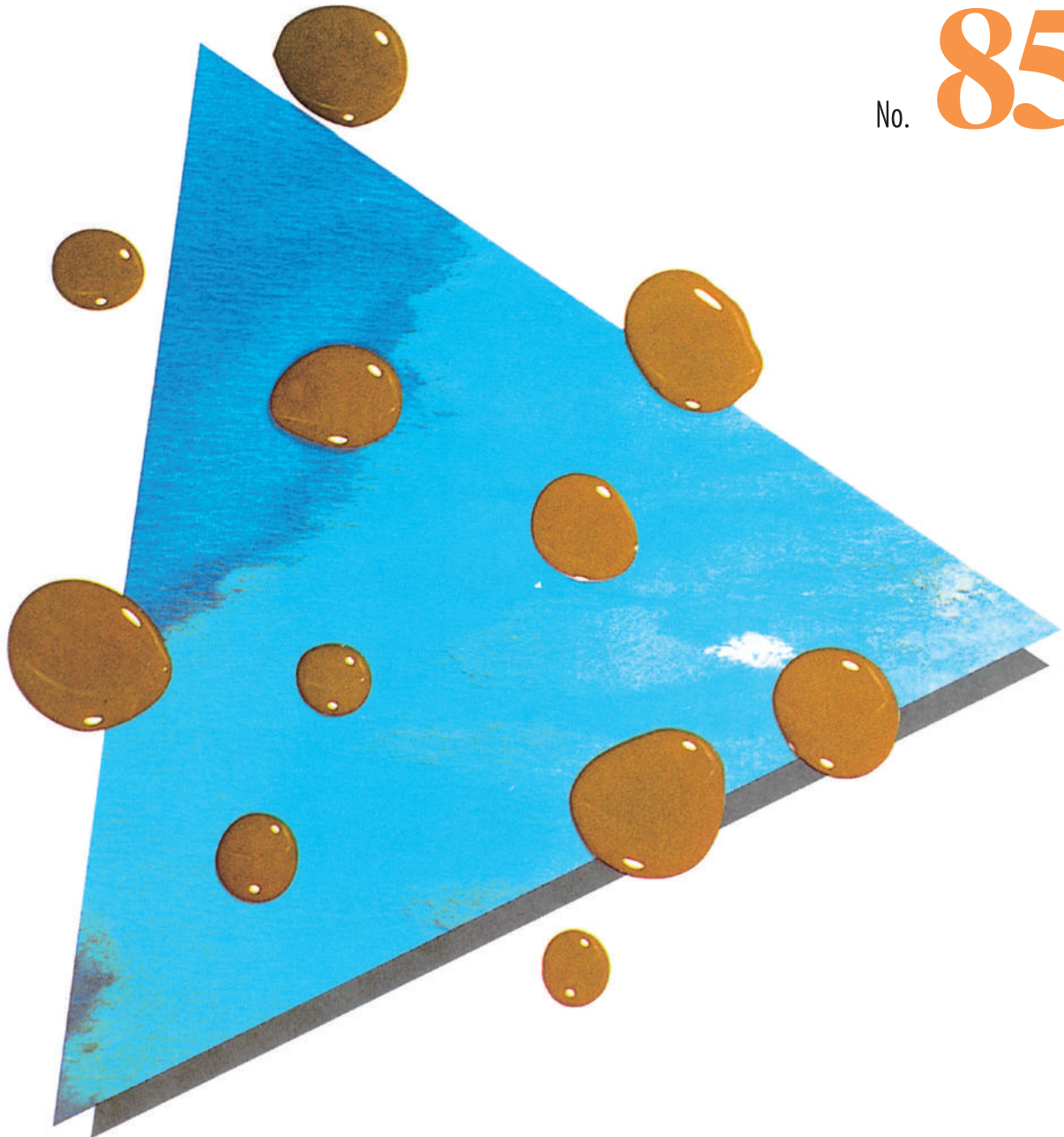


2009 新年号

海上防災事業者・防除資機材特集

油濁基金
だより

No. 85



財団法人 漁場油濁被害救済基金

目 次

年頭のご挨拶

(財)漁場油濁被害救済基金 理事長 服部 郁弘	1
水産庁増殖推進部漁場資源課長 香川 謙二	2

記 事

北海道長万部町で発生した油濁事故について (独)海上災害防止センター 元防災部長 (財)漁場油濁被害救済基金 漁場油濁対策専門家 佐々木 邦昭	3
漁港にオイルタンクを設置している漁協の皆様へ 法定排出油防除資材の備え付け数量の計算方法が変わりました！ (独)海上災害防止センター 調査研究室長 木本 弘之	8
油汚染防除指導者養成講習会を顧みて 相川海運産業株式会社 海上防災アドバイザー 坂本 由之	14
一寸一息	23

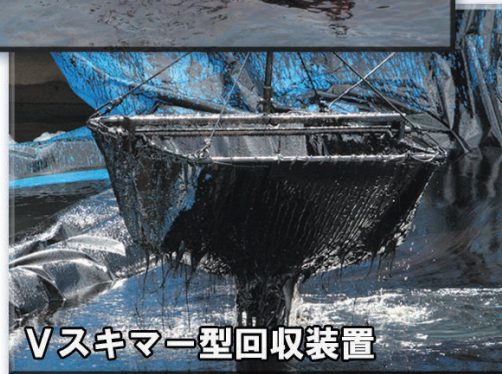
基金からのお知らせ

平成 20 年度油汚染防除指導者養成講習会について	24
稚内市流出油防除訓練に参加して	26

特 集

海上防災事業者・防除資機材紹介	28
防除資機材製造販売業者名簿	34
防除資機材リスト	38

編集後記



当基金では、何処でもあるような材料で簡単に作れて、流出油の回収ができる漁船搭載型簡易流出油回収装置の開発を平成 19 年度から 2 カ年計画で行っております。次号の油濁だより 86 号でこの開発の特集を企画しております。(写真は実際に C 重油を使った回収実験)

年頭のご挨拶

(財)漁場油濁被害救済基金
理事長 服部 郁弘

2009年の幕開けを迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

日頃、本基金の運営に当たりましては、拠出団体をはじめ国、都道府県のご支援、関係機関のご協力を賜り、厚く感謝申し上げます。

昨年は、アメリカのサブプライムローン問題に端を発した世界の金融経済の混迷等、社会を揺るがす激変の年でありましたが、いまなお、先行き不透明であります。

漁業界においても燃油価格が大幅に高騰し、また関連する資材も値上がりし、出漁しても採算がとれず休漁を余儀なくされる等漁業経営存続の危機でありました。このため、漁業者救済措置を求め、業界初めての全国一斉休漁を実施するとともに「危機突破全国漁民大会」を開催し、国に対して支援を強く要請した結果、一定の補填財源を確保することができました。現在、燃油価格も落ち着いてはきたものの、今後は漁船の省エネルギー化および経営のグループ化をはかることによる効率的漁業経営を通じて、更なる構造改革に取り組み、水産物の安定供給に努めていく体制づくりが求められているところであります。

さて、昨年は、正月早々（1月1日）に北海道利尻富士町において外国船舶（無国籍）が時化のため沿岸に避難した時に座礁事故が発生しました。放置すると波浪により船底に穴が空き、船内に残った燃料（A重

油）やビルジが漁場に流出するおそれがあり、油抜き作業を実施しました。また、地元の漁業者が防除作業を行い、かつ船舶の撤去作業も地元自治体で行いました。原因者は判明していたものの船主が責任ある油流出措置をとらなかったため、この事故は当基金の特定防除事業の対象となりました。

このように、最近では、当基金の原因者不明の油濁事故実績が年々減少傾向にあるものの、日本の沿岸海域を航行する外国船舶の座礁事故は減少しておりません。海上保安庁の統計によりましても、平成19年の海洋汚染の発生確認件数は、油濁事故302件、そのうち原因者不明は56件となっており、ここ数年では確認件数は増加傾向となっております。

当基金は、油濁事故に対する救済事業のほか、油濁被害対策のための講習会の開催、防除技術の普及、漁業影響情報図の作成などにも取り組んでおります。特に日本財団の助成を得ながら、油の重大事故に備え、漁業者自らができるだけ機械化した、しかも安全で効率的な油の回収方法についての研究開発も行ってまいります。今後とも、事業の充実をはかり、更なる推進に努めて参りたいと存じます。

結びに全国各地でご活躍の漁業者をはじめ関係機関の皆様方の一層のご繁栄とご健勝を祈念申し上げ、新年のご挨拶といたします。

年頭のご挨拶

水産庁増殖推進部漁場資源課長

香川 謙二

新年、明けましておめでとうございます。皆様には、平素より水産行政にご理解を頂き、また、漁場油濁被害救済基金の運営にご協力を賜っておりますこと、この紙面をお借りしまして、心から御礼申し上げます。

さて、昨年は、引き続き燃油価格の高騰による漁業経営への影響や、岩手・宮城内陸地震や台風被害等の自然災害など、漁場環境に深刻な影響を及ぼす出来事がいくつも発生した年でした。また、船舶衝突や座礁・沈没等の海難事故に伴う油流出事故も発生し、当基金の事業目的である原因者不明の漁場油濁被害も6件発生しました。

昨年発生した事故をいくつか挙げますと、1月には北海道利尻島に国籍証書切れのロシア貨物船が座礁する事故が発生しました。この事故では、原因者と連絡不能になり、時化によって船体が破壊され、油が流出することが懸念されたため、当基金の実施する特定防除事業を活用し、燃料油の抜き取り作業を実施しました。

3月には、兵庫県明石海峡で三隻の船舶による衝突事故が発生しました。事故を起こした船舶のうち、貨物船一隻が沈没し燃料油が流出したことにより、ノリ養殖業などの周辺漁業に甚大な被害を及ぼしました。この事故に対しては、原因者による防除作業が実施されていたため、特定防除事業の活用には至りませんでした。

さらに、近年では毒性を有する化学物質を搭載する船舶の航行も増加してきており、万が一、座礁事故等

が発生し毒性を有する積荷が流出するような事態になれば、周辺漁場への影響はもちろんのこと、航行船舶や周辺住民にも大きな影響を与えます。

このような事故に対して、油流出事故への対応を含めた政府としての対応を定めた、「油等汚染事件への準備及び対応のための国家的な緊急時計画」が平成18年12月に閣議決定されており、この計画に基づき、水産庁としても、関係省庁と連携して適切な対応を図っていくこととしています。

漁業者にとって漁場は、単にそのときの生業の場であるばかりではなく、未来にわたって持続的に利用できる水産資源の源泉であり、その意味で漁場環境の保全は生産基盤を左右するものとして非常に重要です。水産庁としても、漁業関係団体及び水産業界並びに関係行政機関と連携し、一体となって良好な漁場環境の維持・回復に取り組む必要があると考えております。そのためには、普段から事故や災害に対する準備と対応体制を整えておくことが重要です。

その中で、当基金は、漁場油濁被害に対する漁業者の不安や懸念を取り除く重要な役割を果たしており、漁場油濁被害の未然防止と軽減に向け、積極的に活動することを期待されています。当基金の行う事業は高い公益性を有していることから、水産庁としては、その役割を十分に果たせるよう努力していく所存ですので、関係各位のより一層のご理解とご支援をお願い申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。

北海道長万部町で発生した油濁事故について

(独) 海上災害防止センター 元防災部長

(財) 漁場油濁被害救済基金 油濁専門家 佐々木邦昭

北海道長万部町は、渡島半島噴火湾の最深部に位置し、古くから鉄道等交通の要所であった。人口6,700人、主たる産業は漁業で年間約30億円の水揚げがあり、特にホタテ貝（養殖）は全漁獲の80%を占めている。

町前面の海浜は遠浅の砂浜になっていて、ここにホタテ稚貝、ホッキ貝等が豊かに生息している。

一般的に長万部を含む噴火湾内は、大型船の航行、石油コンビナート等が無いいため、油濁事故とは無関係の感がある。

しかし、平成20年10月9日早朝、眠りから目覚めた長万部町数千人の住民は周辺に強烈な油臭がたちこめているのに気が付き街中騒然となった。

国道沿いのガソリンスタンド等が疑われる中で、程なくその原因が、街中にあるJRの保線所のボイラーのトラブルであり、ここから大量のA重油が下水暗渠に流出していることが判明した。

油は、保線所→暗渠800m→開放水路（長さ60m×幅1.5m）→南部陣屋川→海（噴火湾）の順に流れていた。

地元では初めて経験する油濁事故であり、役場、消防、漁業組合、そして原因者にも混乱が見られ、初期対応も相当遅れてしまったが、同日午後からの回収作

業が順調に進み、被害の発生は最小で済んだと思われる。

漁場油濁救済基金は、9日正午北海道漁連の要請を受け同日専門家を派遣^{*1}し現場の調査・指導活動を行った。

※1 専門家派遣は基金の行っている事業で、事故現場に油防除の専門家を派遣して防除作業に従事する漁業者等を指導している。

1 油流出の原因

JR保線所のボイラー燃料は、外部燃料タンク（容量30kl）から隣接するボイラー室内サービスタンクにポンプで自動的に移送される構造になっている。

事故はこの自動発停装置の故障とみられ、8日午後から9日午前8時過ぎまでの長時間オーバーフローの状態が続き、油は同タンク下部のオイルパンの割れ目から地中に流れ、近くの雨水枡に集まった。

油は、この雨水枡から排水管を通じて、街中に巡る暗渠を経由し、開放水路、川、海に至った。

サービスタンクのある小屋の外側を掘り返したところ、土砂が油を過飽和状態に含み、油臭が鼻を突いていた。



写真1 外部タンク 30kl、



写真2 サービスタンクとオーバーフローパイプ



写真3 雨水枡内の強力吸引車による油水吸引



写真4 雨水枡、油が地下水と一緒に出てくる



写真5 サービスタンク小屋と油漏洩部掘削



写真6 掘削箇所・滲み出る油分を吸引中

2 流出油

JRの発表によると、8日午後から翌朝午前8時の発見時まで、A重油約13.3klが室内サービスタンクから流出、原因は同タンクの自動発停装置の故障により、外部タンクから送油が続き、サービスタンクのオーバーフローパイプから漏出、地中から雨水枡にたまり、ここから暗渠に流出した。

3 経路と状態

(1) 流出源から海まで

暗渠：約800m、水路：約60m（図参照）

(2) 暗渠と水路

現場調査を開始した9日午後2時現在の状況は、水路の下側の水門が閉じられ、表層の流れは殆どない状態であった。油は水路に相当量浮いていて、油吸着材による回収が水門側に堰を作り行われていた。暗渠に

も相当量が残っていると推測された。

午後4時頃から、水門から20m程上の水路に板で堰を設け、ここで流入する油を食い止めると共に、水門付近の堰で水路に残っている油の回収を強力吸引車





写真7 水路 水門から20m程上



写真8 水路 水門付近の堰



写真9 南部陣内川水路 水門側の堰



写真10 河口から

で行った。油の厚さは10cm以上あることが分かった。

(3) 海上など

- ・海保航空機による調査が行われ、8日午前11時の状況は南部陣内川河口から南方向に「距岸50mの幅、長さ2kmに薄いEクラスの油膜」が確認されている。海上荒天、波高く、海風10m/s
- ・9日午前6時、河口から南方向の海岸を徒歩でJR職員と調査、漂着ゴミ、海鳥等に全く油の痕跡が無かった。8日の強風波浪で気散したものと思われた。砂浜の所々に油吸着材が打ち上げられていた。
- ・南部陣内川は満潮時には逆流するため、川の上流域にも油が流れていたが、3日後調査した結果、油の痕跡は認められなかった。



写真11
南部陣内川河口から南1km付近の海岸
油の痕跡はなかったが所々に油吸着材が打ち上げられていた

4 回収作業

(1) 油処理剤

初期段階で地元消防署は油処理剤数缶を用意し、2缶を南部陣内川で散布した、しかし漁業組合の申し入れでそれ以後の散布は中止している。

(2) 油吸着材

シート型とソーセージ型が使用され、メーカーもタフネル、森の木太郎、クレシア、ユーシーマット等が近郊の消防署等から集められた。

作業員からは各々の吸着性差異についての声があった。回収された油吸着材は、ビニール袋に入れられ、その量は5.9トンでドラム缶に入れられて最終的に石狩市の処理場に運ばれ焼却処分された。

(3) 強力吸引車

JRの手配により、強力吸引車4台が水路と保線所雨水枡に溜まっている油を回収するため、9日夕刻から翌日昼まで使われた。そして、油水約30klが回収され、更にその後も14日現在、3台が保線所で使われた。

回収された油水は延べ74台により140klとなり、函館の処理業者へ運ばれた。

強力吸引車は、風量40m³/分、レシーバー8klクラス(11トン車)が3台と小型車(5トン車)1台が使用された。

流出油の回収に強力吸引車が使われたことは、ナホトカ号事故以来数例があり、何れも海岸に漂着した風化したC重油の回収であった。今回は陸側で、しかもまだ新しいA重油での使用は、我国の油濁事故では

初めてのことである。

強力吸引車を扱った会社では、特に問題はなかったと語っていた。

(4) オイルフェンス

9日朝から地元消防署により南部陣屋川に使用された。川幅は3～5m、流速は60cm/s程で写真12のように展張されている。

オイルフェンスの間に当初油吸着材を投入したが、その全てが油と共に海上に流れ、翌日海浜にこれら油吸着材が打ち上げられていた。

(5) 油汚土の処分

前述油流出箇所の油で汚染された土砂はフレコン約600袋(約800トン)が石狩の処分場に運ばれ焼却処理^{*2}された。

※2 油分を概ね5%以上含むもので廃油と汚泥の混合物と考えられるものについては焼却処理が必要となる。(昭和51年11月18日付け環水企第181号・環産第17号通知「油分を含むでい状物の取り扱いについて」)

(6) 本油濁事故で回収処分された油水及び油汚染物は

- ・油水 約140キロリットル (函館 廃油処理場へ)
- ・油吸着材等 約6.3トン (石狩の産廃で焼却へ)
- ・油汚泥 約800トン (石狩の産廃で焼却へ)
- ・油汚泥 約360トン (管理型埋め立て)
- ・その他にコンクリートがら、金属クズ等150トンと流出したA重油の量13.3klに対して、重量比で約100倍になっている。



写真12 油は水路から水門を経て南部陣屋川へ B型OF3通りに地元消防により展張

5 心配された漁業被害について

漁業組合によると、9日油の漂流している海域は、遠浅の砂浜でホタテ稚貝、ホッキ貝の漁場であり、油による影響の心配があった。

10日付近で試験的に採取したホッキ貝と鮭では油臭等はなく、幸い漁業被害は確認されなかった。

6 指導した内容

現場のJR作業チーム及び漁業組合での対策会議で行った助言内容

- (1) 本事故では油処理剤は使用しないこと（川で既に散布していた）
- (2) 海への更なる油流出を防ぐため、開放水路に堰を2箇所設置し、上流側の堰で新たな油を食い止め、下流側の堰で水路に残る油を回収し、この間をクリーンにする。
- (3) 油吸着材の種類、使用方法、特性について
- (4) 作業を責任者の下に3つの班に分け、各々班長を定め役割分担を明確にする事。第1班は上の堰、第2班は下の堰、第3班は後方支援
- (5) 暗渠800mの中に残留する油の有無をマンホールから確認する事
- (6) 海上への影響について付近のホッキ貝を採取し油臭を確認する事
- (7) 南部陣内川は満潮時に逆流があり、上流も調査が必要である事

7 所感

本油濁事故は、NHK等TVニュースと新聞で全国に報道され、内陸部で発生した事故としては量的には最大規模である。噴火湾は元々油濁事故が殆どない海域であったため地元人々の驚きは大きい。多くの油が水路に残っていて海への流出が少量に抑えられたが、これは水門を初期に閉めたことによるもので適切な判断がなされていた。これらの油の多くは強力吸引車により回収できたことも幸運であった。JRが強力吸引車を手配したことも適切であった。更にサービスタックのリミットスイッチ故障により油が噴出す事故は、船舶ではしばしばあった事で、その多くは機関等の高熱部に注ぎ火災に繋がっている。しかし、今回は火災に至らなかったこと、そして多くの町民が油臭に見舞われただけで済んだことも幸運であった。

油の流出が10月8日の何時始まったかは不明であるが、発見までの長時間を要し、初期対応が大幅に遅れたために、その分防除作業は大掛かりになり、回収した油汚染物も膨大な量になった。即ち、ボイラー室の見回り点検がなかった又は不十分であった事が本油濁事故の大きな要素となっており類似の事故予防のために、ボイラー周りの定期見回り点検が重要である事を訴えている事例にも思える。



北海道新聞関連記事 (08年10月9、10、12日)

漁港にオイルタンクを設置している漁協の皆様へ 法定排出油防除資材の備え付け数量の計算方法が変わりました！

(独) 海上災害防止センター 調査研究室長 木本 弘之

平成 18 年 6 月の通常国会において「海洋汚染等及び海上災害の防止に関する法律の一部を改正する法律」が成立し、同改正法は平成 19 年 4 月 1 日から施行されています。これに合わせて「海洋汚染等及び海上災害の防止に関する法律施行規則（国土交通省令）」も改正され、改正法と同じく平成 19 年 4 月 1 日から施行されています。

従来から同法第 39 条の 3（排出特定油の防除のための資材）において、特定油（いわゆる黒物油）を輸送する総トン数 150 トン以上のタンカーの船舶所有者、同船舶を係留することができる係留施設の管理者及び 500 キロリットル以上の特定油保管施設の設置者は、オイルフェンス、油処理剤、油吸着材又は油ゲル化剤を備え付けることが義務付けられています。

この総トン数 150 トン以上の黒物タンカーの船舶所有者、総トン数 150 トン以上の黒物タンカーを係留することができる係留施設の管理者、500 キロリットル以上の特定油保管施設の設置者等に課された油防除資材（オイルフェンス、油処理剤、油吸着材又は油ゲル化剤）の備え付け義務について、従来は、資材の能力如何に関わらず、一定量を備え付ける必要がありましたが、平成 19 年 4 月 1 日から施行された改正省令では、このうち油処理剤、油吸着材又は油ゲル化剤については、各製品毎の能力を勘案した上で、柔軟に備え付けることができることとなりました（オイルフェンスについては、A または B の区分のみで従来どおり）。

また、これらの油防除資材（法律では「特定油防除資材」という。）を備え付けたときは（これらを変更したときも同じ）、速やかに、特定油防除資材の種類、数量及び場所を所在地の海上保安部に提出することが新たに義務付けられました。

平成 19 年 4 月 1 日から施行された改正省令では、想定される排出油量を処理するために保有する資材のうち、オイルフェンスを除く資材について、新たに次のような製品の能力を勘案する考え方が取り入れられました。

油処理剤 : 油処理剤 1 (ℓ) で何倍の油 (ℓ) を処理できるか

油吸着材 : 油吸着材 1 (kg) で何倍の油 (ℓ) を処理できるか

油ゲル化剤 : 油ゲル化剤 1 (ℓ) で何倍の油 (ℓ) を処理できるか

※ 例えば、自重の 10 倍処理できる油吸着材に比べて、自重の 40 倍処理できる油吸着材の場合には、吸着能力が 4 倍あるということで、備え付け数量は 1/4 で済むこととなります。

油処理剤については、従来の通常型処理剤が流出油量の 20% の散布が必要であったのに対して、自己攪拌型油処理剤 S-7 は、流出油量の 5% の散布で効果を発揮しますので、備え付け数量はやはり 1/4 で済むこととなります。

この新しい計算方法は以下のとおりです。

1. 「総トン数 150 トン以上の黒物タンカーを係留することができる係留施設の管理者」または「500 キロリットル以上の特定油保管施設」における油処理剤、油吸着材又は油ゲル化剤の備え付け数量に関する新しい計算方法

(新しい備え付け量の計算方法)

「係留するタンカーの総トン数」あるいは「油保管施設毎に定められた保管量」に応じた想定排出油量の 2 割の油を処理するために必要な油処理剤、油吸着材又は油ゲル化剤の量とする。

また、各資材の合計数量を積算するに当たっては、各資材の処理能力を勘案することができる。

注 1 : 黒物タンカーの場合は、当該船舶の総トン数に応じ、想定排出油量の 1 割または 2 割に相当する油を処理するために必要な量（油処理

剤、油吸着材又は油ゲル化剤)とする。

注2：当該船舶内に資材を備え付ける場合は1割とする。

備付基地に備え付ける場合は2割とする。

2. 資材（油処理剤、油吸着材又は油ゲル化剤）の処理能力

以上のように平成19年4月1日から施行された改正省令では、各資機材の処理能力を勘案することが可能となりましたが、各資材の処理能力そのものが分からないと、報告書に記載する資材の備え付け数量を計算することができません。

このため、海上災害防止センターにおいては、現在型式承認を取得している各資材の処理能力について、各業界団体から聴取し、その結果を次表のとおりまと

めましたので、「総トン数150トン以上の黒物タンカーを係留することができる係留施設の管理者」または「500キロリットル以上の特定油保管施設の設置者」が特定油防除資材備付状況報告書を作成する際に、備え付ける資材の量を算出するに当たっての参考とすることができます。

なお、次ページ以下に「第2号様式 特定油防除資材備付状況報告書（油保管施設設置者用）」、「第3号様式 特定油防除資材備付状況報告書（係留施設管理者用）」のサンプルを添付しましたので、参考にして下さい。

報告書の様式は、<http://www.kaiho.mlit.go.jp/apply/index.html> から入手できます。

資 材 の 種 類		処 理 能 力
油処理剤(ℓ)	通常型油処理剤	5倍（散布率20%）
	高粘度油用油処理剤 D-1128	10倍（散布率10%）
	自己攪拌型油処理剤 S-7	20倍（散布率5%）
	センター注：油処理剤の散布に当たっては、油処理剤を原液で霧状にして散布する専用の「原液散布装置」を使用することが前提である。タグボートなどに備え付けられている消防用の放水銃にエゼクターで油処理剤を海水と混合させて散布する方式では上記に記載された処理能力を発揮することはできない。	
油吸着材(kg)		型式承認を取得した際の試験成績書に記載された試験結果
油ゲル化剤(ℓ)	粉末油ゲル化剤	2倍
	液体油ゲル化剤	3倍

特定油防除資材備付状況報告書 (油保管施設設置者用)

〇〇海上保安部 殿

海洋汚染等及び海上災害の防止に関する法律施行規則第38条第4項の規定に基づき、次のとおり報告します。

設置者 氏名 (名称) ABC石油株式会社
 住所 (所在地) 神奈川県横浜市みなとみらい3-1 TEL 045-XXXX-XXXX

1 報告の種類		事実が発生した日	平成20年4月〇〇日
<input checked="" type="checkbox"/> 備付け	<input type="checkbox"/> 変更		

2 油保管施設の名称等			
名称	ABC石油株式会社横浜油槽所	用途	油の保管、払出
所在地	神奈川県横須賀市みなと町5-1		
保管する特定油の種類及び量	A重油		800kℓ

3 防除資材の所要数量・所要処理数量			
オイルフェンス	保管可能な特定油の数量	800kℓ	所要数量 200m
油処理剤・油吸着材・油ゲル化剤	想定排出量	10kℓ	所要割合 2割 所要処理数量 2kℓ

4 備付防除資材						
資材の種類	商品名	備付場所	数量	処理能力	処理数量	合計
オイルフェンス	<input checked="" type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B	油槽所資材倉庫	200m			① 300m
	<input type="checkbox"/> A <input checked="" type="checkbox"/> B	油槽所資材倉庫	100m			
油処理剤	YCCブルークリーン	油槽所資材倉庫	720ℓ	5倍	3,600ℓ	② 7.2kℓ
	ネス AB3000	油槽所資材倉庫	720ℓ	5倍	3,600ℓ	
			ℓ	倍	ℓ	
			ℓ	倍	ℓ	
油吸着材	タフネoilブロッカー	油槽所資材倉庫	300Kg	10倍	3,000ℓ	③ 3.0kℓ
			Kg	倍	ℓ	
			Kg	倍	ℓ	
油ゲル化剤			ℓ	倍	ℓ	④ 0kℓ
			ℓ	倍	ℓ	
			ℓ	倍	ℓ	
オイルフェンスの長さの合計 (①)						300m
油処理剤、油吸着材及び油ゲル化剤の処理数量の合計 (②+③+④)						10.2kℓ

5 添付書類	
防除資材の備付けを他の者に委託している場合は当該委託契約書の写しを添付すること。	<input type="checkbox"/> 添付あり <input checked="" type="checkbox"/> 添付なし

(日本工業規格A列4番)

(第2号様式の裏面)

記入要領

- (1) 備付義務の対象となる油保管施設について、1施設つき1枚作成する。
- (2) 1の報告の種類は、該当する報告の種類の□にレ印(×印も可。以下同じ。)を記入する。
- (3) 海洋汚染等及び海上災害の防止に関する法律第39条の3第3号に規定する係留施設の管理者を兼ねる場合は、海洋汚染等及び海上災害の防止に関する法律施行規則(以下「規則という。」)別表第二備考3に留意すること。
- (4) 3のオイルフェンスの所要数量は、保管可能な特定油の数量に応じ、表1を参照の上、表3又は表4から該当する長さを選択し、記入すること。
- (5) 3の想定排出量及び所要割合は、表2から該当する想定排出量を選択の上記入し、所要割合2割を乗じた数量を所要処理数量の欄に記入すること。

表1 規則別表第二(概要)

5万kℓ以上の量の特定油を保管することができる施設の設置者		5万kℓ未満の量の特定油を保管することができる施設の設置者	
オイルフェンスB	油処理剤、油吸着材又は油ゲル化剤	オイルフェンスA又はB	油処理剤、油吸着材又は油ゲル化剤
表3のとおり	当該施設で保管することができる特定油の量に応じ、想定排出量(表2)の 2割 に相当するB重油を処理するために必要な量	表4のとおり	当該施設で保管することができる特定油の量に応じ、想定排出量(表2)の 2割 に相当するB重油を処理するために必要な量

表2 保管量に応じた想定排出量(規則別表第二)

特定油の量(kℓ)	500～ 1,000 未満	1,000～ 5,000 未満	5,000～ 10,000 未満	10,000～ 50,000 未満	50,000～ 100,000 未満	100,000～ 200,000 未満	200,000～
想定排出量(kℓ)	10	15	20	25	30	40	50

表3 保管量に応じたオイルフェンスの所要数量(規則別表第二)

特定油の量(kℓ)	50,000～ 100,000 未満	100,000～ 200,000 未満	200,000 以上
長さ(m)	660	840	1,000

表4 保管量に応じたオイルフェンスの所要数量(規則別表第二)

特定油の量(kℓ)	1,000 未満	1,000～ 5,000 未満	5,000～ 10,000 未満	10,000～ 50,000 未満
長さ(m)	200	300	360	460

- (6) 4のオイルフェンスの商品名の欄には、A又はBのうち、該当する方の□にレ印を記入すること。
- (7) 4の油処理剤、油吸着材、油ゲル化剤の処理能力は、各資材の取扱説明書等に記載されている処理能力(自重)の倍数)とし、備付数量に乘じた数量を処理数量の欄に記入すること。
- (8) 4の備付場所は、「施設内油防除資材庫」等と具体的に記入すること。
- (9) 5に該当する場合は、□添付ありにレ印を記入すること。

特定油防除資材備付状況報告書（係留施設管理者用）

殿

海洋汚染等及び海上災害の防止に関する法律施行規則第 38 条第 4 項の規定に基づき、次のとおり報告します。

管理者 氏名（名称） _____

住所（所在地） _____ Tel _____

1 報告の種類		事実が発生した日	平成 年 月 日
<input type="checkbox"/> 備付け	<input type="checkbox"/> 変更		

2 係留施設の名称等			
名称	所在地	用途	係留可能な最大船舶の総トン数
			トン
			トン
			トン

3 防除資材の所要数量・所要処理数量			
オイルフェンス	係留可能な最大船舶の長さ	m	所要割合 最大船舶の長さの1.5倍
油処理剤・油吸着材・油ゲル化剤	想定排出量	kℓ	所要割合 2割
			所要数量 m
			所要処理数量 kℓ

4 備付防除資材						
資材の種類	商品名	備付場所	数量	処理能力	処理数量	合計
オイルフェンス	<input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B		m			
	<input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B		m			① m
油処理剤			ℓ	倍	ℓ	
			ℓ	倍	ℓ	
			ℓ	倍	ℓ	
			ℓ	倍	ℓ	
			ℓ	倍	ℓ	② kℓ
油吸着材			Kg	倍	ℓ	
			Kg	倍	ℓ	
			Kg	倍	ℓ	
			Kg	倍	ℓ	
			ℓ	倍	ℓ	③ kℓ
油ゲル化剤			ℓ	倍	ℓ	
			ℓ	倍	ℓ	
			ℓ	倍	ℓ	
			ℓ	倍	ℓ	④ kℓ
オイルフェンスの長さの合計 (①)						m
油処理剤、油吸着材及び油ゲル化剤の処理数量の合計 (②+③+④)						kℓ

5 添付書類	
防除資材の備付けを他の者に委託している場合は当該委託契約書の写しを添付すること。	<input type="checkbox"/> 添付あり <input type="checkbox"/> 添付なし

(日本工業規格A列4番)

(第3号様式の裏面)

記入要領

- (1) 備付義務の対象となる係留施設について、原則として1施設につき1枚作成する。(ただし、海洋汚染等及び海上災害の防止に関する法律施行規則(以下「規則という。」)別表第二備考4及び備考5に該当する場合はこの限りでない。)
- (2) 1の報告の種類は、該当する報告の種類の□にレ印(×印も可。以下同じ。)を記入する。
- (3) (1)のただし書きに該当する場合は、規則別表第二備考4及び備考5に留意し、該当する係留施設を全て2の欄に記入すること。
- (4) 3のオイルフェンスの所要数量は、表1を参照の上、係留可能な最大の船舶の長さの1.5倍を乗じた数量を記入すること。
- (5) 3の想定排出量は、表2から該当する想定排出量を選択の上記入し、所要割合2割を乗じたものを所要処理数量の欄に記入すること。

表1 規則別表第二(概要)

総トン数1万トン以上の船舶を係留することができる係留施設の管理者		総トン数1万トン未満の船舶を係留することができる係留施設の管理者	
オイルフェンスB	油処理剤、油吸着材又は油ゲル化剤	オイルフェンスA又はB	油処理剤、油吸着材又は油ゲル化剤
当該係留施設に係留することができる最大の船舶の長さの 1.5倍 の長さ	当該係留施設に係留することができる最大の船舶の総トン数(下表)に応じ、想定排出量の 2割 に相当するB重油を処理するために必要な量	当該係留施設に係留することができる最大の船舶の長さの 1.5倍 の長さ	当該係留施設に係留することができる最大の船舶の総トン数(下表)に応じ、想定排出量の 2割 に相当するB重油を処理するために必要な量

表2 総トン数に応じた想定排出量(規則別表第二備考1イ)

総トン数(トン)	200未満	200～500未満	500～1,000未満	1,000～5,000未満	5,000～10,000未満	10,000～50,000未満	50,000～100,000未満	100,000以上
想定排出量(kℓ)	10	15	20	30	70	100	230	320

- (6) オイルフェンスの商品名の欄には、A又はBのうち、該当する方の□にレ印を記入すること。
- (7) 4の油処理剤、油吸着材、油ゲル化剤の処理能力は、各資材の取扱説明書等に記載されている処理能力(自重)の倍数)とし、備付数量に乘じた数量を処理数量の欄に記入すること。
- (8) 4の備付場所は、「○○岸壁第○号上屋内」等と具体的に記入すること。
- (9) 5に該当する場合は、□添付ありにレ印を記入すること。

油汚染防除指導者養成講習会を顧みて

相川海運産業株式会社
海上防災アドバイザー 坂本 由之



第4回講習会 平成11年12月1日
長崎県対馬美津島町大船公民館にて

第1回講習会 平成11年2月25日(水)
愛媛県中予水産試験場講堂

0



写真1



写真2



写真3



写真4



写真5

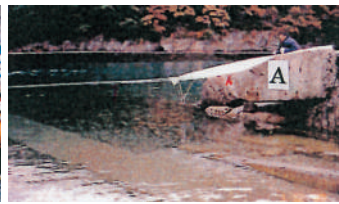


写真6

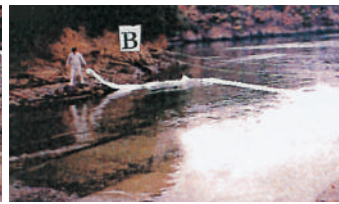


写真7



写真8

第6回講習会 平成12年11月1日
大分県浦江町蒲江漁港

第9回講習会 平成14年10月16(水)
島根県大田市静間町和江漁港

第10回講習会 平成14年10月18日(金)
島根県隠岐郡西郷町西郷漁港



写真1



写真2



写真3



写真4

実技講習ビデオの作成



写真1-2 带状マットをZ状に折畳み、切断後固く縛り連結。



写真3-4-5 広域拡散油を包囲し、護岸前面へ追い込む。

写真6 ビニールシートの吊揚げロープ上に折畳みながら2名で回収。



写真7-8 エンドレスロープを対岸へ展張し、帯状マットで浮流油を包囲回収。

写真9-10 油回収ネットをライトバンから引き出し、船外機船2隻で浮流油を包囲しながら護岸へ追い込む。



写真11 油回収ネットで追い込んだ厚い油層の中へ油回収浮枠を投入し、杓で油水を汲み入れ、又小片マットを浮枠上の金網に入れ一括回収。

写真12 油導入式浮枠へ向け海面放水により浮流油を追い込む。

写真13 厚い油層の表面油をエアポンプで水面下へ吸引して回収。

写真14 3.9m直径の組立タンク内の厚い油層を小片マットで回収しビニール袋内へ入れる。



写真15-16 可搬式消防ポンプ〔約50kg〕を作業船へ積載し、突堤又は岩場から放水により付着油を剥離し海面へ追い出す。

写真17 突堤・岩場から放水により剥離した浮流油を油回収ネット等で回収

写真18 油回収ネット40mを護岸上から鉤棒により2名で折畳み、吊揚げロープを大回しに掛ける。



写真19 ユニック車クレーンまたはホークリフトにより1巻で護岸上のビニールシートに上げる。

写真20 ユニック車荷台へ積載した状態。

第16回講習会 平成16年9月7日
青森県平内漁業協同組合



写真1



写真2



写真3



写真4

第17回講習会 平成16年10月28日
稚内市中央稚内水産ビル

第20回講習会 平成17年10月26日(水)
富山市岩瀬天神町 岩瀬カナル会館

第21回講習会 平成17年11月18日(金)
東京都港区海岸 東京都港湾局東京港管理事務所

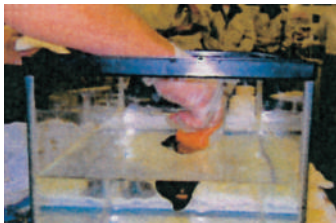


写真1



写真2



写真3



写真4

第22回講習会 平成18年1月12日(水)
千葉市中央区 千葉県庁5F大会議室



写真1



写真2



写真3



写真4

第23回中央講習会 平成18年2月20日~21日





写真1



写真2



写真3



写真4

第25回講習会 平成18年4月25日～27日
船橋市湊町 船橋市消防局



写真1



写真2



写真3



写真4

第29回講習会 平成18年10月31日(火)
大分市向原西(社) 大分県トラック協会

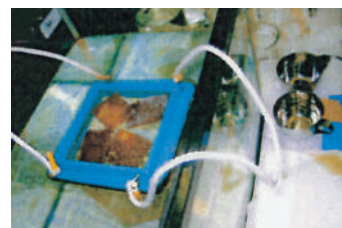


写真1



写真2



写真3

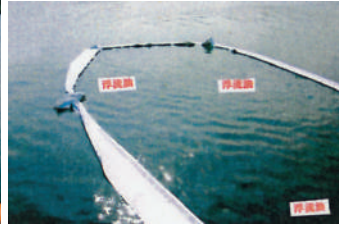


写真4



写真5

第32回講習会 平成20年2月21日(木)
沖縄県浦添宜野湾漁業協同組合研修センター



写真1



写真2

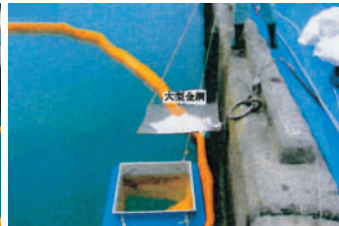


写真3



写真4

第33回講習会 油污染防除指導者養成中央講習会
平成20年3月11日(火)
東京都港区赤坂 日本財団ビル



写真1



写真2



写真3



写真4

第34回講習会 平成20年6月24日(木)
千葉市中央区市場町 千葉県庁舎



写真1



写真2



写真3



写真4

終わりに

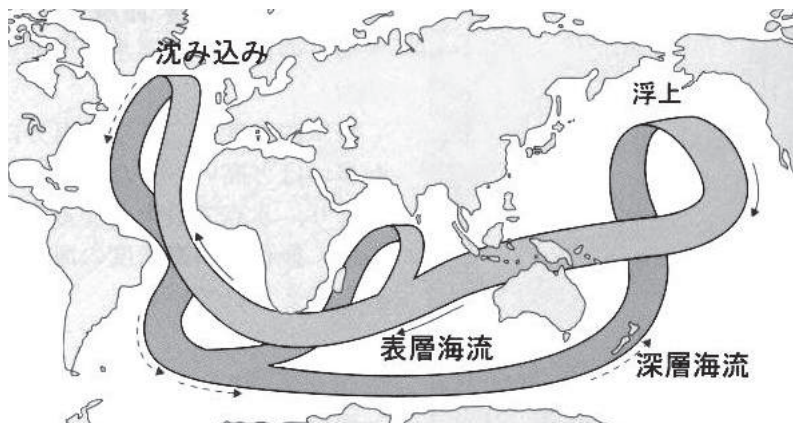


一寸一息

深海の水は流れている！の巻

深海底の水が流れている？どうも本当のようです。世界の海の平均深度は約6千mです。海洋科学技術センター（現海洋研究開発機構）が「しんかい6500」を造ったのは、これで世界の海の90%が潜水できるからです。でもどうしても最深部位まで潜りたいということで、1万mまで潜れる「かいこう」を造り、潜水のできない海はなくなりました。でも、海洋研究が進むにつれて表層水から海底までの海水の分析をしますと不思議な現象に出会いました。水温は表層からだんだん下がって行ってある深さで4℃と海底まで一定になります。しかし、元々地球になかったフロンガスや放射性人工核種は表層で最も高く、深いほど濃度は下がりますが、何と海底付近で再び濃度が上昇するのです。そして海底のフロン等の人工生産物は赤道の海底より北大西洋の緯度が高いほど濃度が高いのです。どうしてでしょうか？

科学者はこう考えました。北太平洋と北大西洋、どちらの水が辛いでしょうか？北大西洋です。北大西洋の方が大河川の影響が少ないので塩分濃度が高いのです。冬、寒くなると海水は冷え、密度が高くなります。グリーンランド付近で表層水は重くなって沈みます。大気に含まれるフロンや人工性核種も一緒に沈みます。海底に着くとこの重い海水は次から次へと上から重い海水が押すので南へと流れ、赤道を越えて南極にぶつかります。西は南アメリカ大陸にぶつかりますから東へ流れ、オーストラリアを超えてもっと行くと再び南アメリカ大陸にぶつかるので左折して、太平洋の海底を北上します。しかしアリューシャン列島があるのでここでやっと浮上して表層水になり、インド洋から喜望峰を回って大西洋、そしてメキシコ湾海流になるという壮大な「海洋大循環」です。計算では大西洋のグリーンランドから沈み込んでアリューシャン列島で浮上するまで1200年かかるそうです。距離は約3万マイル（海里）くらいあるでしょうから、ここで単純に速度を計算すると1年で46.3Km、1日で126.8m、1時間で5.3m、毎分8.8cmとじわっと動いていることになります。スケールの大きな話ですが、地球温暖化はこの流れにも影響すると言う科学者がいるそうです。なお、日本海の深層水は供給も流出もない固有水とされています。(I)



ブロッカー博士の
コンベア・ベルト説

平成20年 油汚染防除指導者養成講習会について

- ▶ P
- ▶ P
- ▶ P
- ▶ P
- ▶ P
- ▶ P

平成20年 油汚染防除指導者養成講習会 開催概要

開催日	開催場所	開催時間	定員	申込締切日	申込先	備考
10月1日	東京都立総合教育センター	10時～15時	10名	9月25日	東京都立総合教育センター	
10月2日	東京都立総合教育センター	10時～15時	10名	9月25日	東京都立総合教育センター	
10月3日	東京都立総合教育センター	10時～15時	10名	9月25日	東京都立総合教育センター	
10月4日	東京都立総合教育センター	10時～15時	10名	9月25日	東京都立総合教育センター	
10月5日	東京都立総合教育センター	10時～15時	10名	9月25日	東京都立総合教育センター	
10月6日	東京都立総合教育センター	10時～15時	10名	9月25日	東京都立総合教育センター	
10月7日	東京都立総合教育センター	10時～15時	10名	9月25日	東京都立総合教育センター	
10月8日	東京都立総合教育センター	10時～15時	10名	9月25日	東京都立総合教育センター	
10月9日	東京都立総合教育センター	10時～15時	10名	9月25日	東京都立総合教育センター	
10月10日	東京都立総合教育センター	10時～15時	10名	9月25日	東京都立総合教育センター	
10月11日	東京都立総合教育センター	10時～15時	10名	9月25日	東京都立総合教育センター	
10月12日	東京都立総合教育センター	10時～15時	10名	9月25日	東京都立総合教育センター	
10月13日	東京都立総合教育センター	10時～15時	10名	9月25日	東京都立総合教育センター	
10月14日	東京都立総合教育センター	10時～15時	10名	9月25日	東京都立総合教育センター	
10月15日	東京都立総合教育センター	10時～15時	10名	9月25日	東京都立総合教育センター	
10月16日	東京都立総合教育センター	10時～15時	10名	9月25日	東京都立総合教育センター	
10月17日	東京都立総合教育センター	10時～15時	10名	9月25日	東京都立総合教育センター	
10月18日	東京都立総合教育センター	10時～15時	10名	9月25日	東京都立総合教育センター	
10月19日	東京都立総合教育センター	10時～15時	10名	9月25日	東京都立総合教育センター	
10月20日	東京都立総合教育センター	10時～15時	10名	9月25日	東京都立総合教育センター	

		0			
					P

全国の講習会で実演し「わかりやすい」と好評の水槽実験がビデオになりました！

海に油が流出したら・・・

どのように対応したら良いのでしょうか？



流出した油の種類に応じた油防除資機材の適切な使用方法や油処理剤の使用方法をご紹介します。油回収の仕組みを水槽実験でご覧に入れるビデオおよびDVDを制作しました。

Contents (19分30秒)

油の種類

油の種類に応じた防除資機材

A重油やC重油の回収 / 油吸着マットの種類 / 色々な油防除資機材
ムース化油の回収 / 色々な種類の油が同時に流出したら など

油処理剤の使用方法

油処理剤の種類 / メカニズム / 散布方法 / やってはいけないこと など



* ご要望につきましては実費を頂き お分けしておりますので講習会等でご活用ください。

連絡先：財団法人 漁場油濁被害救済基金（担当：中澤・加藤）

Tel 03-3254-7033 fax 03-3254-3978 E-mail office@yudaku.jp

稚内市流出油防除総合訓練に参加して



稚内漁協の漁船による柄杓を使っての油回収訓練



災害対策現地合同本部テント



展示コーナー

もしも油が流れたら

油だ！
連絡だ！

吹流しもいいよ～

川から来た油は
河口までにキャッチね

やっぱり
ロールマット
がいいね

囲んで集めて一気に回収

油回収ネットと
オイルフェンスもいいよ～

2隻で曳けば楽ちん楽ちん

走れ 走れ
油よ飛んでけ！

囲まないと
シートがどこかに
流れていきますよ

油を発見した時の連絡先

海上保安部（署）
都道府県
市町村
漁業協同組合連合会

油濁についてお困りでしたらご連絡下さい

財団法人 漁場油濁被害救済基金

〒101-0041 東京都千代田区神田須田町1-18 共同ビル6階
TEL 03-3254-7033 FAX 03-3254-3978
E-mail office@yudaku.jp URL <http://www.yudaku.jp>

海上防災事業者・防除資機材紹介

(1) 海上防災事業者名簿

会社名 HPアドレス 支所名	〒	住所	電話番号 FAX番号	メールアドレス
相川海運産業(株)	260-0832	千葉県千葉市中央区寒川町1-114	043-224-1160 043-224-3695	
伊勢湾防災(株) http://www.uyeno-group.co.jp/	510-0011	三重県四日市市霞2-1-1 四日市港ポートビル4階	059-361-1033 059-361-1024	
伊藤商事(株) http://www.wbs.ne.jp/bt/sbc/company/009_itous.html	424-0037	静岡県静岡市清水区袖師町1877-66	054-365-6565 054-364-5620	
田子の裏営業所	417-0015	静岡県富士市鈴川町10-1	0545-33-1133 0545-32-1195	ito-hon@iris.ocn.ne.jp
大井川営業所	421-0212	静岡県志太郡大井川町利右衛門2683-2	054-622-3388 054-622-2184	
上野マリン・サービス(株)	230-0035	神奈川県横浜市鶴見区安善町2-4 昭和シェル石油(株)内	045-521-7415 045-502-8827	bousaigr-ums@uyeno-group.co.jp
大分臨海興業(株)	870-0913	大分県大分市松原町3-1-11 大分鐵鋼ビル5階	097-558-9588 097-556-3848	
沖縄マリンサービス(株)	901-2402	沖縄県中頭郡中城村字泊537-2	098-895-5401 098-895-5417	
(株)小名浜油送	971-8101	福島県いわき市小名浜字辰巳町36番地7	0246-92-2243 0246-92-5300	
海洋曳航(株)	026-0013	岩手県釜石市浜町1-1-304	0193-24-3322 0193-24-3320	
(株)カムテックス	720-0313	広島県福山市沼隈町大字常石1083	084-954-6700 084-954-6703	
福山事務所	721-0956	広島県福山市箕沖町107-5	084-954-6700	
キソー化学工業(株)	651-1212	兵庫県神戸市灘区摩耶埠頭1番地 摩耶業務センタービル5階	078-871-6755 078-871-7993	pc4m-kdm@asahi-net.or.jp
共栄運輸(株)	040-0061	北海道函館市海岸町22-5	0138-42-4121 0138-42-4120	
光和興業(株)	850-0862	長崎県長崎市出島長3番10	095-824-3638 095-827-5416	
酒田曳船(株)	998-0036	山形県酒田市船場町2-6-7	0234-24-2360 0234-24-2365	saka-tug@amber.plala.or.jp
(株)シーゲートコーポレーション http://www.seagatecorp.com/	734-0013	広島県広島市南区出島2-22-37	082-254-2524 082-255-1042	
徳山支店	745-0811	山口県周南市五月町9-28	0834-21-4611 0834-22-0081	htug@seagatecorp.com
門司支店	801-0841	福岡県北九州市門司区西海岸1-4-12	093-331-2168 093-332-0491	
昭和航空(株) http://www.showa-net.co.jp	542-0081	大阪府大阪市中央区南船場2-11-9	06-6271-0600 06-6251-6478	info@showa-net.co.jp
新日本石油マリンサービス(株)	891-0202	鹿児島県鹿児島市喜入中名町2856番5	0993-27-5152 0993-45-2541	

担当部署	活動場所	流出油防災事業						関連事業						その他	(独)海上 災害防止 センター 関連事業	製造 販売	
		回収 防除	漏油 処理	油処 理剤 散布	オイル フェン ス展張	河川 対応	警戒 警備	曳船	船舶 代理店	油 抜き 取り	船体 撤去	海難 救助	廃棄 物 処理				HNS 対応
業務部	東京湾内	○	○	○	○	○	○										○
業務グループ オペレーション チーム	伊勢湾	○	○	○	○	○	○							○			○
代理部	駿河湾一带																
	田子の浦港	○	○														○
	大井川港																
業務グループ 防災業務チーム	東京湾内（主に 横浜港・川崎港）	○	○										○	排出油回収・ 処理海上 防災業務		○	○
総務・経理 グループ	大分県沿岸、 東九州一円	○	○	○			○	○			○		○			○	
業務部	中城湾	○	○				○	○	○		○		○			○	
業務課	特に福島県沿岸 及び他港、河川、 湖沼	○	○			○											○
総務	釜石湾、宮古湾	○		○				○									
営業部	全国											○	○	回収された 廃油類の処理			
	全国												○			○	
営業部	函館港	○							○							○	
営業部	長崎港及び周辺	○	○					○									
海務部	日本海北部	○						○									
曳船部	呉、広島、瀬戸内																
防災課	徳山、下松、 瀬戸内	○	○	○			○	○	○				○			○	
曳船部曳船課	北部九州一带																
業務部	全国			散布 飛行										視察・ 調査飛行			
	鹿児島湾 (喜入港)	○		○	○		○	○	○							○	

会社名 HPアドレス 支所名	〒	住所	電話番号 FAX番号	メールアドレス
西部マリン・サービス(株)	756-0885	山口県山陽小野田市西沖5番地 西部石油(株)内	0836-88-1173 0836-88-1175	
下関事業所	750-0014	山口県下関市岬之町16番6	083-222-3411 083-222-3413	
ソーワエンジニアリング(株)	658-0025	兵庫県神戸市東灘区魚崎南町2-8-28	078-452-6431 078-452-6446	
東京事務所	105-0011	東京都港区芝公園2-6-15 (黒龍芝公園ビル7F (株)ネオス東京支店内)	03-3434-8691 03-3434-7897	
防除チーム 苫小牧	059-1372	北海道苫小牧市勇払22-5	0144-52-2266 0144-52-2265	yokoi-t@sowa-eng.jp
防除チーム 神戸	658-0025	兵庫県神戸市東灘区魚崎南町2-8-28	078-452-6431 078-452-6446	
防除チーム 小野田	756-0802	山口県山陽小野田市栄町7-6	0836-83-2044 0836-83-8147	
(株)ダイトコーポレーション	108-8540	東京都港区芝浦2-1-13	03-3452-6271 03-3798-3086	
千葉支店	260-8517	千葉県千葉市中央区中央港1-9-5	043-238-5113 03-3798-3086	
敦賀海陸運輸株式会社	914-0078	福井県敦賀市桜町2番10号	0770-22-3111 0770-24-3065	
東京サルベージ(株)	260-0834	千葉県千葉市中央区今井2-18-21	043-208-0081 043-208-0082	
苫小牧海運(株)	053-0005	北海道苫小牧市元中野町4-7-1	0144-34-6105 0144-34-6544	
長崎倉庫(株)	850-0862	長崎県長崎市出島町2-13	095-824-1265 095-825-7110	
日興産業(株)	734-0015	広島県広島市南区字品御幸3-9-6	082-253-7111 082-253-6714	
日本サルヴェージ(株) http://www.nipponssalvage.co.jp	143-0016	東京都大田区大森北1-5-1 大森駅東口ビル	03-5762-7172 03-5762-7177	
門司支店	801-0804	福岡県北九州市門司区田野浦海岸15-73	093-321-0937 093-331-9466	tokyo@nipponssalvage.co.jp
今治営業所	794-0013	愛媛県今治市片原町1-2 今治港湾ビル	0898-23-6460 0898-23-6460	
(有)仁徳海運	800-0007	北九州市門司区小森江1丁目2番9号	093-332-3285 093-332-3589	
深田サルベージ建設(株) http://www.fukasal.co.jp	552-0021	大阪府大阪市港区築港4-1-1 辰巳商会ビル	06-6576-1871 06-6577-2111	
東京支社	102-0072	東京都千代田区飯田橋3-8-7 辰巳ビル	03-5213-5581 03-5213-5585	
大阪支社	552-0021	大阪府大阪市港区築港4-1-1 辰巳商会ビル	06-6576-1881 06-6577-2112	
中国支社	737-0823	広島県呉市海岸3-14-15	0823-22-5100 0823-20-0080	salvage.towage@fukasal.co.jp
横浜支店	231-0005	神奈川県横浜市中区本町1-8 大宗パークビル	045-212-1005 045-650-1001	
名古屋支店	455-0051	愛知県名古屋市中川区中川本町6-1-53	052-661-9416 052-659-1491	
九州支店	801-0804	福岡県北九州市門司区田野浦海岸1番26	093-321-4164 093-322-1140	

担当部署	活動場所	流出油防災事業						関連事業						その他	(独)海上 災害防止 センター 関連事業	製造 販売	
		回収 防除	漏油 処理	油処 理剤 散布	オイル フェン ス展張	河川 対応	警戒 警備	曳船	船舶 代理 店	油 抜き 取り	船体 撤去	海難 救助	廃棄 物 処理				HNS 対応
防災グループ	宇部、関門海域	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○		○	○
環境部	全国	○	○	○	○	○	○					○	○	○	廃油処理 潜水作業		○
防災グループ	東京湾	○	○		○	○	○	○	○					○		○	○
港湾事業本部 営業部 営業第二課	敦賀港				○				○								
	全国	○		○	○	○				○	○	○				○	○
営業部	苫小牧港	○			○		○	○	○							○	
船舶代理店部 営業部	長崎港	○	○														
営業部 工務部	広島港周辺	○	○	○	○		○	○			○	○			サルベージ 作業		
サルベージ 業務部 サルベージ 営業部 サルベージ 営業部	全国	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○		○		○	
	関門港	○		○	○			○	○							○	
東京支社 サルベージ部	日本全域及び 海外	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○		○	

会社名 HPアドレス 支所名	〒	住所	電話番号 FAX番号	メールアドレス
福島汽船(株)	971-8101	福島県いわき市小名浜字渚254	0246-53-5836 0246-92-2641	unkou@fkisen.co.jp
(株)富士サルページ http://www.fujisal.com	040-0052	北海道函館市大町8番25	0138-26-3911 0138-27-2870	
北陸海事(株)	933-0104	富山県高岡市伏木湊町10-8	0766-44-3311 0766-44-3379	
(株)三国	913-0031	福井県坂井市三国町新保40-6	0776-81-3600 0776-82-7883	kaizi03@s-mikuni.co.jp
	913-0038	福井県坂井寺三国町新保96-1-11	0776-81-3891 0776-82-6556	
三国屋建設(株)	314-0112	茨城県神栖市知手中央2-1-2	0299-96-5068 0299-96-5098	
	東京支店 105-0003	東京都港区西新橋1-18-11 ル・グラシエルビル16-8階	03-3591-8205 03-3595-4453	
宮城マリンサービス(株) www.miyagimarine.co.jp	985-0873	宮城県塩釜市貞山通1-8-35	022-364-2301 022-365-1532	tugboat@miyagimarine.co.jp
	石巻出張所 985-0842	宮城県石巻市潮見町13-1	0225-95-4459 0225-95-4420	
(株)ロックブリッジ http://www.rockbridge.jp	064-0804	北海道札幌市中央区南四条西10-1004-1	011-533-0037 011-788-2146	h-iwahashi@rockbridge.jp
稚内港運(株)	097-0005	北海道稚内市大黒5-5-5	0162-22-3233 0162-22-4402	

担当部署	活動場所	流出油防災事業					関連事業							その他	(独)海上 災害防止 センター 関連事業	製造 販売	
		回収 防除	漏油 処理	油処 理剤 散布	オイル フェン ス展張	河川 対応	警戒 警備	曳船	船舶 代理 店	油 抜き 取り	船体 撤去	海難 救助	廃棄 物 処理				HNS 対応
運航管理部	福島県沿岸	○		○				○				○				○	
業務部	全国	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○			○	
業務グループ	富山湾一带	○	○	○	○	○	○	○						○		○	
海事部 (船舶代理店)	福井港一円	○	○	○	○	○	○	○	○			○	○			○	
サルベージ部	全国	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○			○	
営業部	仙台塩釜港、石巻 港及び周辺港湾	○	○	○	○		○	○	○			○		○		○	○
営業本部	全国														砂浜漂着油 回収防除作業		○
	沿岸、稚内港内	○	○					○								○	

(2) 防除資機材製造販売事業者名簿

会社名 HP アドレス	〒	住所	電話番号	FAX 番号
相川海運産業株	260-0832	千葉県千葉市中央区寒川町 1-114	043-224-1160	043-224-3695
阿南電機株 http://www.anandenki.co.jp/	530-0041	大阪府大阪市北区天神橋 3-6-26 扇町パークビル	06-6353-6640	06-6353-6615
東京営業所	105-0001	東京都港区虎ノ門 1-20-7 松栄虎ノ門第2ビル	03-3500-1351	03-3500-1353
株アルファジャパン http://www.alpha-gel.com/	135-0033	東京都江東区深川 2-21-2	03-3642-3855	03-5842-1576
(有)アルファ名古屋 http://www.alphanagoya.jp/	492-8219	愛知県稲沢市稲葉 2-4-32	0587-33-5052	0587-33-5058
伊勢湾防災株 http://www.uyeno-group.co.jp/	510-0011	三重県四日市市霞 2-1-1 四日市港ポートビル 4階	059-361-1033	059-361-1024
伊藤商事株 http://www.wbs.ne.jp/bt/sbc/company/009_itous.html	424-0037	静岡県静岡市清水区袖師町 1877-66	054-365-6565	054-364-5620
田子の浦営業所	417-0015	静岡県富士市鈴川町 10-1	0545-33-1133	0545-32-1195
大井川営業所	421-0212	静岡県志太郡大井川町利右衛門 2683-2	054-622-3388	054-622-2184
上野マリン・サービス株	230-0035	神奈川県横浜市鶴見区安善町 2-4 昭和シェル株内	045-521-7415	045-502-8827
株エクセノヤマミズ http://www.exeno.co.jp	103-0023	東京都中央区日本橋本町 4-4-2 東山ビル	03-5201-4651	03-5201-4658
西日本支店	650-0024	兵庫県神戸市中央区海岸通 5 番地 商船三井ビル	078-334-7801	078-334-7803
小川テント株 http://www.ogawatent.co.jp	135-8471	東京都江東区福住 1-14-7	03-3641-7308	03-3641-3816
大阪支店	578-0905	大阪府東大阪市川田 4-5-24	072-962-1016	072-962-1018
東北営業所	023-0402	岩手県奥州市胆沢区小山字油地 137	0197-47-1989	0197-47-1988
株小名浜油送	971-8101	福島県いわき市小名浜字辰巳町 36 番地 7	0246-92-2243	0246-92-5300
カクイ株 http://www.kakui.co.jp	890-0081	鹿児島県鹿児島市唐湊 4-16-1	099-254-2349	099-254-2136
片山ナルコ株	533-0023	大阪府大阪市東淀川区東淡路 1-6-7	06-6321-7306	06-6322-8168
株活充企画	284-0015	千葉県四街道市千代田 1-16-4	043-423-0881	043-423-1014
ガデリウス株 http://www.gadelius.com	107-8302	東京都港区赤坂 5-2-39	03-3224-3415	03-3224-3434
株カネヤス http://www.kaneyasu.co.jp	750-0322	山口県下関市菊川町大字橋崎 644-1	083-288-2111	083-288-2117
株きら和ぎ http://www.h6.dion.ne.jp/~kiranagi	112-0006	東京都文京区小日向 4-6-19 共立会館	03-5319-3181	03-5319-3182
光和興業株	850-0862	長崎県長崎市出島町 3-10	095-824-3638	095-827-5416
壽環境機材株 http://www.kotobukikk.com/	108-0023	東京都港区芝浦 3-14-5 テクス芝浦ビル 3階	03-5444-2341	03-5444-2481
鈴英株 http://www.suzuei.co.jp/	170-0004	東京都豊島区北大塚 2-11-14	03-3917-7481	03-3917-7075
スリーエムヘルスケア株 http://www.mmm.co.jp/ohesd/	158-8583	東京都世田谷区玉川台 2-33-1	03-3709-8269	03-3709-8490
西部マリン・サービス株	756-0885	山口県山陽小野田市西沖 5 番地 西部石油株内	0836-88-1173	0836-88-1175
下関事業所	750-0014	山口県下関市岬之町 16 番 6 号	083-222-3411	083-222-3413
ソーワエンジニアリング株	658-0025	兵庫県神戸市東灘区魚崎南町 2-8-28	078-452-6431	078-452-6446
東京営業所	105-0011	東京都港区芝公園 2-6-15 (黒龍芝公園ビル 7F 株ネオス東京支店内)	03-3434-8691	03-3434-7897
第一衛材株 http://www.daichi-eizai.co.jp/	769-1696	香川県観音寺市豊浜町和田浜 1610-2	0875-52-3131	0875-52-2328
	105-0003	東京都港区西新橋 1-6-21NBF 虎ノ門ビル 6階	03-5521-2261	03-5521-2262
第一工業製薬株 http://www.dks-web.co.jp	601-8391	京都府京都市南吉祥院大河原町 5	075-323-5911	075-323-5976
東京支所	140-0002	東京都品川区東品川 2-2-24 天王洲セントラルタワー 18階	03-5463-3681	03-5463-3669
株ダイトーコーポレーション http://www.daitocorp.co.jp	108-8540	東京都港区芝浦 2-1-13	03-3452-6271	03-3798-3086
千葉支店	260-8517	千葉県千葉市中央区中央港 1-9-5	043-238-5113	03-3798-3086

メールアドレス	担当部署	取扱資機材の種別					防災事業
		油吸着材	油ゲル化剤	油処理剤	オイルフェンス	その他	
	営業部	○		○	○	○	○
info@anandenki.co.jp	営業企画部	○	○			○	
info@alpha-gel.com	営業部	○	○	○	○		
info@alphanagoya.jp		○	○	○	○	油脂 洗浄剤	
	業務グループ オペレーションチーム						
ito-hon@iris.ocn.ne.jp	代理部	○	○	○	○		○
bousaigr-ums@uyeno-group.co.jp	業務グループ 防災業務チーム	○		○	○		○
	機材部	○	○	○	○		
info@ogawatent.co.jp	土木海洋部				○		
	業務課	○	○	○	○		○
kakui@kakui.co.jp	新素材ユニット	○					
	セールスサポート室	○					
katujukikaku@ecopad.jp	営業部	○					
kazuya.miyakawa@gadelius.com	環境機器事業部				○	○	
	技術開発部					○	
		○					
	営業部	○		○			
	東京営業所	○					
	海洋商品部						
	安全衛生製品事業部	○					
	防災グループ	○	○	○	○	○	○
yokoi-t@sowa-eng.jp	開発部	○	○	○	○	○	○
h-okada@daiichi-eizai.co.jp	C & F 事業部	○					
	機能化学品事業部 機能化学品営業部 界面活性剤東部			○			
c-bousai1@daitocorp.co.jp	千葉支店防災グループ	○		○	○		○

会社名 HP アドレス	〒	住所	電話番号	FAX 番号
高階救命器具(株) http://www.tlpc.co.jp/	556-0028	大阪府大阪市浪速区久保吉 1-1-34	06-6567-1141	06-6568-7528
(株)タナカ商事 http://www1.ocn.ne.jp/~tnk-sj/	003-0811	北海道札幌市白石区菊水上町一条 1-325-5	011-815-3601	011-815-3605
東京営業所	103-0013	東京都中央区日本橋人形町 2-20-5 石川ビル 2 階	03-3665-3765	011-815-3605
谷口商会(株) http://www.taniguti.co.jp/	701-0221	岡山県岡山市藤田 338-31	086-296-5906	086-296-6507
苫小牧海運(株)	053-0005	北海道苫小牧市元中野町 4 丁目 7 番 1 号	0144-34-6105	0144-34-6544
ティビーアール(株) http://www.tbrjp.co.jp	442-0844	愛知県豊川市小田測町 4-63	0533-88-2171	0533-88-6219
トーア紡マテリアル(株) http://www.toabo.co.jp/	541-0048	大阪府大阪市中央区瓦町 3-1-4	06-6203-3006	06-6203-7488
東京サルベージ(株)	260-0834	千葉県千葉市中央区今井 2-18-21	043-208-0081	043-208-0082
東レ・ファインケミカル(株) http://www.torayfinechemicals.com/	279-8555	千葉県浦安市美浜 1-8-1 東レビル 10 階	047-350-6150	047-350-6095
大阪支店	530-8222	大阪府大阪市北区中之島 3-3-3 中之島三井ビルディング 19 階	06-6445-9707	06-6445-9708
同和化学(株)	239-0836	神奈川県横須賀市内川 1-4-17	046-835-6553	046-835-6144
日祥(株) http://www.nissho-ch.co.jp/	101-0041	東京都千代田区神田須田町 2-5-2 須田町佐志田ビル 6 階	03-5294-1300	03-5294-1350
大阪支店	530-6591	大阪府大阪市北区中之島 3-6-32	06-6448-6101	06-6448-6108
日本ソリッド(株) http://www.nihonsolid.co.jp	105-0004	東京都港区新橋 2-16-1 ニュー新橋ビル 5 階	03-3504-1574	03-3501-5608
日本油化工業(株)	231-0002	神奈川県横浜市中区海岸通 3-9 郵船ビル 3 階	045-201-8867	045-201-8358
神戸営業所	650-0027	兵庫県神戸市中央区中町通 2-1-18 日本生命神戸駅前ビル 6 階	078-361-4105	078-361-4106
(株)ネオス http://www.neos.co.jp	650-0001	兵庫県神戸市中央区加納町 6-2-1 神戸関電ビル 7 階	078-331-9382	078-331-9319
東京支店	105-0011	東京都港区芝公園 2-6-15 黒龍芝公園ビル 7 階	03-3434-7822	03-3434-7897
(株)農業機械研究所	152-0033	目黒区大岡山 1-27-2	03-3717-7730	03-3718-9561
東日本タグボート(株)	039-1162	八戸市豊洲 3 番地 11	0178-71-1511	0178-43-1353
芙蓉パーライト(株) http://www.fuyo-p.co.jp	103-0001	東京都中央区日本橋小伝馬町 2-4	03-3666-7119	03-3666-7819
諏訪工場	393-0001	長野県諏訪郡下諏訪町樋橋 3041-1	0266-27-2018	0266-28-8328
(株)フジコー	664-8615	兵庫県伊丹市行基町 1-5	072-772-7619	072-772-7631
(株)ブリヂストン http://www.bridgestone.co.jp/	103-0028	東京都中央区八重洲 1-6-6 八重洲センタービル 9 階	03-5202-6871	03-5202-6874
ぶんご有機肥料(株) http://suginoyutori.hp.infoseek.co.jp/	879-6182	大分県竹田市大字今 1015	0974-65-2316	0974-65-2318
前田工織(株) www.maedakosen.jp	919-0422	福井県坂井市春江町沖布目 38-3	0776-51-3535	0776-51-3545
東京本社			03-3663-7897	03-3663-9930
大阪支店			06-6201-0313	06-6201-0668
西宮営業所			078-903-0433	078-903-0744
松本興産(株)	550-0005	大阪府大阪市西区西本町 1-2-14 岡島ビル 8 階	06-6238-0092	06-6538-0096
東京営業所	103-0023	東京都中央区日本橋本町 1-5-11 KDC 日本橋ビル 9 階	03-5200-3336	03-5200-3338
名古屋営業所	460-0002	愛知県名古屋市中区丸の内 1-17-19 キリックス丸の内ビル 8 階	052-201-9640	052-231-3409
(株)マツイ http://www.matsui-corp.co.jp/	106-8641	東京都港区麻布台 2-4-7	03-3586-4141	03-3224-2410
宮城マリンサービス(株) www.miyagimarine.co.jp	985-0873	宮城県塩釜市貞山通 1-8-35	022-364-2301	022-365-1532
石巻出張所	986-0842	宮城県石巻市潮見町 986-084213-1	0225-95-4459	0225-95-4420
三井化学(株) http://www.tafnel.com	105-7117	東京都港区東新橋 1-5-2 汐留シティセンター	03-6253-3637	03-6253-4226
(株)ユウホウ http://www.yuho.toyobo.co.jp/	530-0003	大阪府大阪市北区堂島 2-1-16 フジタ東洋紡ビル 7 階	06-6348-4315	06-6348-4309
東京営業所	103-0016	東京都中央区日本橋小網町 17-9 東洋紡 5 階	03-5640-8331	03-5640-8332
(株)ロックブリッジ http://www.rockbridge.jp	064-0804	北海道札幌市中央区南四条西 10-1004-1	011-533-0037	011-788-2146

メールアドレス	担当部署	取扱資機材の種別					防災事業
		油吸着材	油ゲル化剤	油処理剤	オイルフェンス	その他	
t_mitsui@tlpc.co.jp	産業資材部	○		○	○		
tnk.ka@wonder.ocn.ne.jp		○	○	○	○		
info@taniguti.co.jp		○			○	○	
	営業部	○	○	○	○		○
info@tbrjp.co.jp	環境事業部	○					
	営業2部	○					
		○	○	○	○		○
	機能部材営業部 スポンジ・不織布販売課	○					
dowacm-j@nifty.com				○			
h.kinoshita@chiso.co.jp	大阪支店 生活資材グループ	○					
nsolid@mbd.ocn.ne.jp	経理部	○			○		
	営業部	○		○	○		
kagaku@neos.co.jp	化学品本部	○	○	○	○		
	営業					○	
tugsato@pl.hi-net.ne.jp	業務部	○		○			○
	営業部	○					
	本社営業2部	○					
	建設資材販売促進部 海洋資材販売促進課				○		
m-saito@oita-ri.go.jp		○					
kaiyou@mdk.co.jp	海洋営業部	○			○		
	東京営業所	○	○	○	○		
	東京第一営業部				○	○	
tugboat@miyagimarine.co.jp	営業部	○		○			○
	生活エネルギー材事業部	○					
	不織布事業部	○					
h-iwahashi@rockbridge.jp	営業本部					○	○

(3) 防除資機材リスト

① 油吸着材

商品名	型式承認	形状	特徴など	製造者及び取扱のある事業者 (製造者又は主たる事業者に下線)
アイセーブ		シート型、万国旗型		苫小牧海運
アタックエース		シート型	低～高粘度油に対応	エクセノヤマミズ、 <u>壽環境機材</u> 、 トーア紡マテリアル、
スーパーアタック	○	シート型、ロール型		
ネオアタックエース	○	シート型		
油トリマン	○	シート型	牛乳パック端材を使用。 海上用と陸上用	<u>第一衛材</u>
アルファゲル	○	マット、長尺型、万国旗型	油、石油系溶剤をゲル化する	アルファ名古屋
アルファZ-1		吹流しタイプ	低～高粘度油に対応、 ミクロン単位の油膜にも対応	<u>アルファジャパン</u>
ウォセップ	○	厚み（1cm・0.4cm・0.25cm・0.45cm）のシート型、ロール型 厚み1cmのサイコロ型、うどん型	低～高粘度油に対応（ポリプロピレン製）	片山ナルコ、 <u>東レ・ファインケミカル</u>
エコパッド	○	マット型、万国旗型、ロール型	天然繊維（カポック）を袋状に詰めたもの	<u>活充企画</u>
オイルキャッチャーロープ	○	ロープ状	繩に綿状のモールを引き出した油吸着ロープ	<u>ティビーアール</u>
オイルスーパーB型	○	油吸着材をネットでく るんだフェンス状	低～高粘度油に対応	<u>日本ソリッド</u>
オイルスキミングネット		油吸着材をネットでく るんだフェンス状	低～高粘度油に対応	<u>相川海運産業</u> 、 <u>伊藤商事</u> 、 <u>カクイ</u> 、 <u>ダイトーコーポレーション</u>
オイルスネアー		ポンポン型	高粘度油専用。ナホトカ号、コーペンチャー号事故などで使用	<u>阿南電機</u> <u>ダイトーコーポレーション</u>
オイルソーベント ハイパフォーマンスオイル ソーベント	○	シート型、長尺型など	ハイパフォーマンス型は片面をラミネート加工し強度を増している	<u>スリーエムヘルスケア</u>
オイルブロック		粒状、マット状、フェンス状	黒曜石が原料	<u>芙蓉パーライト</u>
カクイオイルキャッチャー	○	シート型、ロール型、万国旗型	天然繊維製	<u>カクイ</u> 、 <u>相川海運産業</u>
杉の油取り	○	シート型、万国旗型、フェンス型	HNSにも対応。杉の樹皮を使用	<u>ぶんご有機肥料</u> <u>ダイトーコーポレーション</u>
スプリトッパ		シート型、ロール型、薄い製品、中厚製品	PP繊維、低-中粘度の油に対応。特注寸法にも対応。	<u>前田工織</u> 、 <u>小倉貿易</u> 、 <u>川島商事</u> 、 <u>吉川紙商事</u> 、 <u>ユニチカ通商</u>
スマイレイ		シート型、長尺型、フェンス型	低粘度油などの薄油膜の吸着回収にも対応	エムアイオー、谷口商会、東神電材、ノバーク、メディアプランニング、アズマ、広津産業、ムトウ道路工業
タフネル タフネルオイルブロッター	○	シート型、万国旗型、ロール型、Z型、フェンス型、チューブ型、吹流し型（河川用・海用）	低・中粘度油に対応。吹流し型は高粘度油にも対応	相川海運産業、伊勢湾防災、伊藤商事、上野マリンサービス、小名浜油送、光和興業、ソーワエンジニアリング、 <u>ダイトーコーポレーション</u> 、 <u>トーア紡マテリアル</u> 、 <u>日本油化工業</u> 、 <u>ネオス</u> 、 <u>松本興産</u> 、 <u>三井化学</u> 、 <u>宮城マリンサービス</u> 、 <u>東京サルバージュ</u>

商品名	型式承認	形状	特徴など	製造者及び取扱のある事業者 (製造者又は主たる事業者の下線)
テイジンオルソープ	○	シート型、チューブ型	重油・原油・機械油対応。多孔質な特殊な繊維を使用	日本油化工業、 <u>ユニセル</u>
トキソライト			化学薬品吸着材	松本興産
飛び丸		円盤型	空飛ぶ油吸着マット 吸着材にゲル化剤入り	<u>きら和ぎ</u>
ハイセパーレ		シート型、ロール型	中粘度・高粘度油に抜群の吸着性を示す。C重油吸着46倍。(型式承認試験の方法に準じた社内測定数値)	<u>日祥</u>
ラバライザー		チューブ型、マット型、粒状	低・中粘度油用、HNSにも対応	<u>阿南電機</u>
フジロンクリーンキーパー PPN-400	○	シート型、ロール型	フェルトタイプ	<u>フジコー</u>
もりの木太郎	○	シート型、フェンス型、万国旗型	間伐材を炭化し、不織布に詰めたもの	<u>タナカ商事</u>
ユーシーマット	○	マット型、ロール型	天然綿花系	片山ナルコ、ユウホウ
ラバライザー		チューブ型、マット型、粒状	低・中粘度油用、HNSにも対応	<u>阿南電機</u>
ルブリタック	○	シート型、万国旗型		苫小牧海運
MAXXソルベント	○	シート型、長尺型、チューブ型。ポリプロピレン製	植物油、軽質油、重油に対応	アルファジャパン、アルファ名古屋
OBLオイルキャッチャー		シート型、吹流し型。ポリプロピレン製	シート型は必要分のみ裂いて使用。低・中粘度油に対応。吹流し型は高粘度油にも対応	<u>芙蓉パーライト</u>

型式承認が○である商品においても、形状や材質などにより一部の商品で型式承認がない場合もある。

② 油ゲル化剤

商品名	型式承認	特徴など	製造者及び取扱のある事業者 (製造者又は主たる事業者の下線)
アルファゲル	○	軽質の鉱物油に有効。砂浜で使用可能	<u>アルファジャパン</u> 、アルファ名古屋、伊藤商事、エクセノヤマミズ、小名浜輸送、松本興産
カクタスオイルハードナー	○	粉末型	テスコ
ラバライザー	○	粉末型	阿南電機

注：型式承認がない油ゲル化剤は工場等の陸上で使用するものであり海洋での散布は認められておりません。

③ 油処理剤

商品名	型式承認	製造者及び取扱のある事業者 (製造者又は主たる事業者の下線)
シーグリーン シーグリーン805 シーグリーンD-1128 シーグリーンセルフ・ミキシングS-7	○	相川海運産業、伊勢湾防災、伊藤商事、上野マリンサービス、ダイトーコーポレーション、 <u>松本興産</u> 、松本油脂製菓
シークルN-800	○	<u>第一工業製菓</u>
タイホー・セルフ・ミキシング S-7 メールクリーン505	○	<u>タイホーコーザイ</u> 、光和興業
トーホー・セルフ・ミキシング S-7 トーホーカクタスクリーンL-10A トーホーカクタスクリーンD-1128	○	<u>テスコ</u> 、 <u>苫小牧海運</u> 、
ネオス・セルフ・ミキシング S-7 ネオスAB3000L ネオス D-1128	○	相川海運産業、伊藤商事、小名浜油送、ソーワエンジニアリング、 <u>ネオス</u> 、宮城マリンサービス <u>ダイトーコーポレーション</u>
ブルークリーン D-1128 YCCブルークリーン	○	<u>エクセノヤマミズ</u>
ユニゾール・セルフ・ミキシング S-7 ユニゾール D-1128 ユニゾールFL100	○	相川海運産業、片山ナルコ、 <u>日本油化工業</u> 、 <u>苫小牧海運</u> 、宮城マリンサービス
S.O.R	○	<u>同和化学</u>

④ オイルフェンス

商品名	型式承認	形状など	製造者及び取扱のある事業者 (製造者又は主たる事業者の下線)
ナスコC3-A/C3-C/C3-K/C3-L/C3-N/C3-T/E4-A/E4-C/E4-K/E4-L/E4-N/E4-T/QA - 20/QB - 20	○	A型、B型	伊藤商事、 <u>中村船具工業</u> 、松本興産
ブリヂストンEP-200s/EP-200/EP-300s/EP-300/EP-450s/EP-600s/SO-200A/SO-200G/LT300	○	A型、B型、C型、D型	相川海運産業、小名浜輸送、ソーワエンジニアリング、 <u>苫小牧海運</u> 、日本油工業、ネオス、 <u>ブリヂストン</u> 、 <u>ダイトーコーポレーション</u> <u>東京サルベージ</u>
OKオイルフェンスOK-100/OK-150/OK-200/OK-300/OK-300L/OK-400/OK-450/OK-500/OK-600	○	A型、B型、 <u>準C型</u> 、 <u>準D型</u> 。緊急用と常設用がある	上野マリン・サービス、 <u>エクセノヤマミズ</u> 、 <u>タナカ商事</u> 、 <u>苫小牧海運</u> 、 <u>前田工織</u> 、松本興産
高流速オイルフェンスPON-50		バランスブイ式	<u>日本ソリッド</u>
S-200/300/301、シルトフェンス	○	A型、B型	<u>シバタ工業</u>
SK型オイルフェンスSK-750/SK-550	○	A型、B型	相川海運産業、 <u>カナエ</u> 、 <u>ダイトーコーポレーション</u>
TYA200A/200B、TYB300A/300B、TYS300	○	A型、B型	<u>東洋ゴム工業</u>
スズエイ浮沈式オイルフェンス スズエイPFオイルフェンス			<u>鈴英</u>
ブルーシーオイルフェンスA-of-7/A-of-11/B-of-7/B-of-11/B-OF-7DX/B-OF30/B-OF30DX/SA	○	A型、B型	<u>高階救命器具</u>
NOFIブームバック/ブイ・スウィープ			マツイ、 <u>NOFI</u>
HDスプリント・ブーム ハイ・スプリント・ブーム センチネル・ブーム シヨア・ガーディアン・ブーム			カデリウス、 <u>バイコマ</u>

⑤ その他

商品名	特徴など	取扱のある事業者
油回収装置	外国製。堰式、集油式、モップ式、ハンディーフロート式、ディスク式など	ガデリウス、カネヤス、マツイ
高温高圧洗浄機		ガデリウス、ソーワエンジニアリング、東京サルベージ
ポンプ各種（油送用、回収用）	ウェルディングポンプ、桜川ジェットポンプ	ガデリウス、ソーワエンジニアリング、東京サルベージ
油処理剤散布装置		ガデリウス、カネヤス、農業機械研究所 東京サルベージ
スライディングジョイント	フローターを利用しオイルフェンスなどで港口封鎖可能	ダイトーコーポレーション
オイルフェンス展張回収機	各オイルフェンスメーカーに適した製品の設計製造	相川海運産業
オイルフェンス巻取機	A型、B型どちらも対応	鈴英、高階救命器具
組立式タンク		ガデリウス
簡易イカダ	フロート式	ソーワエンジニアリング
フローティングタンク	膨張式ボート型の回収油一時貯蔵タンク	ガデリウス、カネヤス
泡消火剤各種		相川海運産業 ダイトーコーポレーション
油回収用タモ網、簡易式オイルフェンス接続金具、簡易式オイルフェンス係留装置		西部マリン・サービス
ビーチクリーナー	自走式、牽引式、リモコン式、砂浜に漂着した油やゴミを回収	ロックブリッジ
ビーチクリーナー	漂着油の回収	ガデリウス
コプラ	水面の薄油膜を回収する特殊オイルスキマーと簡易型油精密濾過装置のセット	谷口商会

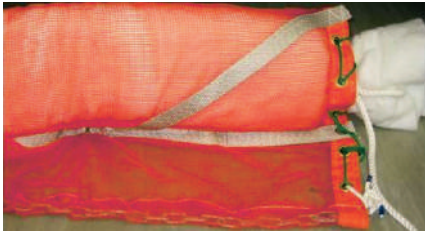
相川海運産業株式会社

業務内容

- * (株)ダイソーコーポレーション傘下での
海洋環境保全にかかる海洋汚染防止措置・防災船艇を主体とした油防除作業・指導
- * 油防除資機材の研究開発・指導
- * 海上災害防止センター・油濁基金との共同開発「油導入式浮枠」の製作・販売
- * 三井化学(株)製品 帯状吸着マット、Z状マット(共同開発)、その他吸着材の販売
(タフネル オイルブロッター)

オイルスキミングネット OSN-2

海上災害防止センターとの共同開発



発売元 相川海運産業株式会社
考案者 防災実務者 坂本 由之



岸壁に油を集める(訓練風景)



仕様

- ・長さ：10m/1本 ・重量：13kg(ポリプロピレン) 11kg(植物繊維) ・ネット：4mm角(ポリエチレン)
- ・浮体：発泡ポリエチレンシート ・吸着材：帯状吸着マット(ポリプロピレン製・植物繊維製)
- ・錘：5mmチェーン ・ロープ：10mmロープが上部袋内を貫通 ・梱包：ポリエチレン製(2本入)
0.95m×0.75m×0.55m=0.391m³

特徴

- ① 性能・・・オイルフェンスと油吸着材の両性能を合わせ持ち有効
- ② 作業・・・軽量で容積がオイルフェンスB型の1/5であり、2名での展張・回収作業が容易
- ③ 運搬・・・軽トラックで160m積載可
- ④ 掃海作業・・・小型艇2隻曳航(2ネット以下)で油を包囲回収
- ⑤ C重油・ムース化油対応・・・波への追従性が良く、網状表面への付着により拡散を防止
- ⑥ 処理費の軽減・・・最終処理費はオイルフェンスB型の1/10以下

実績

ナホトカ号流出油事故(H9年、福井県三国)、コープベンチャー号座礁事故(H14年、鹿児島県志布志湾)、ファル・ヨーロッパ号座礁事故(H14年、伊豆大島)、チルソン号座礁事故(H14年、茨城県日立港防波堤)、ジェーン号座礁事故(H19年、宮城県山元沖)等の油流出事故対応及び

千葉県、(独)海上災害防止センター、東京電力発電所等による災害対応備蓄 他

総計 約54,000m



オイルスキミングネットで集めた油を回収
(H14年、伊豆大島)



2つに割れた座礁船の周りをオイルスキミングネットと
ボンボン型油吸着材を併用して包囲(H13年、志布志湾)

※ 以前は青色だったオイルスキミングネットですが、最近ではオレンジ色を販売しています。
※ オイルスキミングネットは油回収ネットとも呼ばれています。



【サービス内容】

- ・ 海難流出油処理業務
- ・ 海上共同防災受託業務
- ・ オイルフェンス展張
- ・ 油防除資機材販売
- ・ 危険物荷役警戒業務
- ・ 曳航作業
- ・ 通船ボート・網取ボート
- ・ 千葉県船舶給水



ALWAYS READY



株式会社ダイトコーポレーション 防災グループ

〒260-8517 千葉市中央区中央港1丁目9番5号 Tel:043-238-5113

URL <http://www.daitocorp.co.jp>

米国製 最先端油回収技術！！

- 流出事故においては、『簡単に』『素早く』『効率的に』回収することが重要です。
- 油には潤滑油、A重油、ガソリン等の低・中粘度油及び、C重油などの高粘度油が有り、それぞれに適した資機材にて効率的に回収することが重要です。

高粘度(C重油)ならオイルスネアー



◆特長

- 高粘度油を絡め取り回収
- 囲い込みによる回収
- 岩場・テトラポット等での油の除去
- 定置網・養殖場での油の防除
- タンク等に付着した油の除去等



オイルスネアー



オイルスネアー

平成9年ナホトカ号事故現場



オイルスネアー



オイルスネアー

平成20年7月ミシシッピ川河口付近油流出事故



オイルスネアー

低・中粘度油(潤滑油・A重油・ガソリン等)ならラバライザー

～OPRC-HNS ケミカルタンカー事故対応～

油のみならずBTX(ベンゼン, トルエン, キシレン)の回収にも大きな力を発揮します。



ラバライザー

◆特長

- 石油系を素早く強力に吸着・凝固
 - 用途に合わせてチューブ状、マット状、粒状
 - 水を全く吸わないので待ち受けに可能
- ビルジの回収、フィルターとしても最適



ラバライザー

主な納入先 (オイルスネアー)	主な船舶事故 (オイルスネアー)
海上保安庁 第1管区～第11管区	ロシア船籍 ナホトカ号(福井県 三国沖)
海上災害防止センター	パナマ船籍 ダイヤモンドグレース号(東京湾)
水産庁	パナマ船籍貨物船コフベンチャー号(鹿児島県志布志沖)
石油備蓄会社	北朝鮮船籍 チルソン号(茨城県日立港)
石油関連	韓国籍 貨物船マリンオーサカ号(北海道石狩湾新港)
各サルベージ会社	キプロス船籍 アジアコンチェルト(山口県柳井市沖)
地方自治体	パナマ船籍 貨物船OUTSAILING号座礁(北海道松前沖)
電力会社・ガス会社	ベリーズ船籍 オーシャン・ゲム号(北海道苫小牧港) など多数
など多数	

日本総代理店

阿南電機株式会社

〒530-0041 大阪市北区天神橋3-6-26(扇町パークビル)

TEL 06-6353-6640 FAX 06-6353-6615

URL <http://www.anandenki.co.jp> E-mail ito@anandenki.co.jp

米国製強カビーチクリーナー販売

～あなたはまだ砂浜海岸に打ち上げられた漂着油を人海戦術で回収したいですか？～

- 漂着油にはガラスや注射針など、手で触れると危険な有害ゴミも混ざっています。二次被害の危険と隣り合わせの中、ボランティアに防除作業を任せていて良いのでしょうか？
- 米国東・西海岸、ハワイで一番普及している『チェリントン社製ビーチクリーナー』を使えば、漂着油や有害ゴミに一切 手を触れることなく、安全かつ効率的に防除作業を行うことができます。その効果は1989年の米国エクソン・バルディーズ号事故での油回収作業でも実証済みです。
- 緊急時は油回収に、平常時は砂浜海岸のゴミ清掃、グラウンド整備、射撃場の薬きょう回収などに多目的に使用できます！操作に特別な免許も訓練も必要ありません。メンテナンスも手間いらず♪

清掃前

清掃後

♪長時間作業でも楽チン♪

エアコン完備の自走式ビーチクリーナーを製造販売しているのは世界でチェリントン社だけです。



お問い合わせは、チェリントン社製ビーチクリーナー日本国内総代理店

株式会社 ロックブリッジ (担当: いわはし)

住所: 札幌市中央区南4条西10丁目1004-1 (すすきの駅から徒歩10分、中央区役所そば)

電話 011-533-0037 FAX 011-788-2146

URL <http://www.rockbridge.jp> E-mail: h-iwahashi@rockbridge.jp

(ご希望の方に商品説明パンフレット&DVDを無料でお送りしております)



確かな実績と信頼を基に
ネオスは次代を創造します

URL: <http://www.neos.co.jp>

NEOS 株式会社 **ネオス**



流出油処理剤

品名	用途	型式承認番号
ネオス AB3000L	乳化分散型油処理剤 超微毒性	第P-591
ネオス D-1128	乳化分散型油処理剤 高粘度油用	第P-553
ネオス セルブ・ミキシングS-7	乳化分散型油処理剤 自己攪拌型	第P-573

本社

〒650-0001 神戸市中央区加納町6-2-1
(神戸閘電ビル7階)
TEL (078)331-9382 FAX (078)331-9319

支店

〒105-0011 東京都港区芝公園2-6-15
(黒龍芝公園ビル7階)
TEL (03)3434-7822 FAX (03)3434-7897

営業所

北関東: TEL (048)501-0681 FAX (048)527-0423
名古屋: TEL (052)563-3871 FAX (052)561-6965
滋賀: TEL (0748)875-2081 FAX (0748)75-1329
広島: TEL (082)234-8144 FAX (082)234-8141
北九州: TEL (093)551-1581 FAX (093)521-0087

高性能油吸着材

上市35年の技術を生かしました。

ハイセパーレ[®] ES-700シリーズ

新発売

高粘度油 (C重油) に対して抜群の吸着力!

吸着倍率、なんと 46倍!

* 摂氏50℃時の動粘度115cStのC重油、20℃での条件
(運輸省船舶局長通達船査第52号型式承認試験法にもとづく社内試験数値)

< 製品規格 >

銘柄	規格	入り数	重量(kg)
ES-700K	50cm × 50cm	100枚/ケース	5kg/ケース
ES-700S	50cm幅 × 50m	50m/ロール	5kg/ロール
ES-700	100cm幅 × 25m	25m/ロール	5kg/ロール

* ES-700Kは型式承認申請中



製造発売元

日祥株式会社

〒530-6591

大阪市北区中之島3丁目6番32号

TEL: 06-6448-6101 FAX: 06-6448-6108

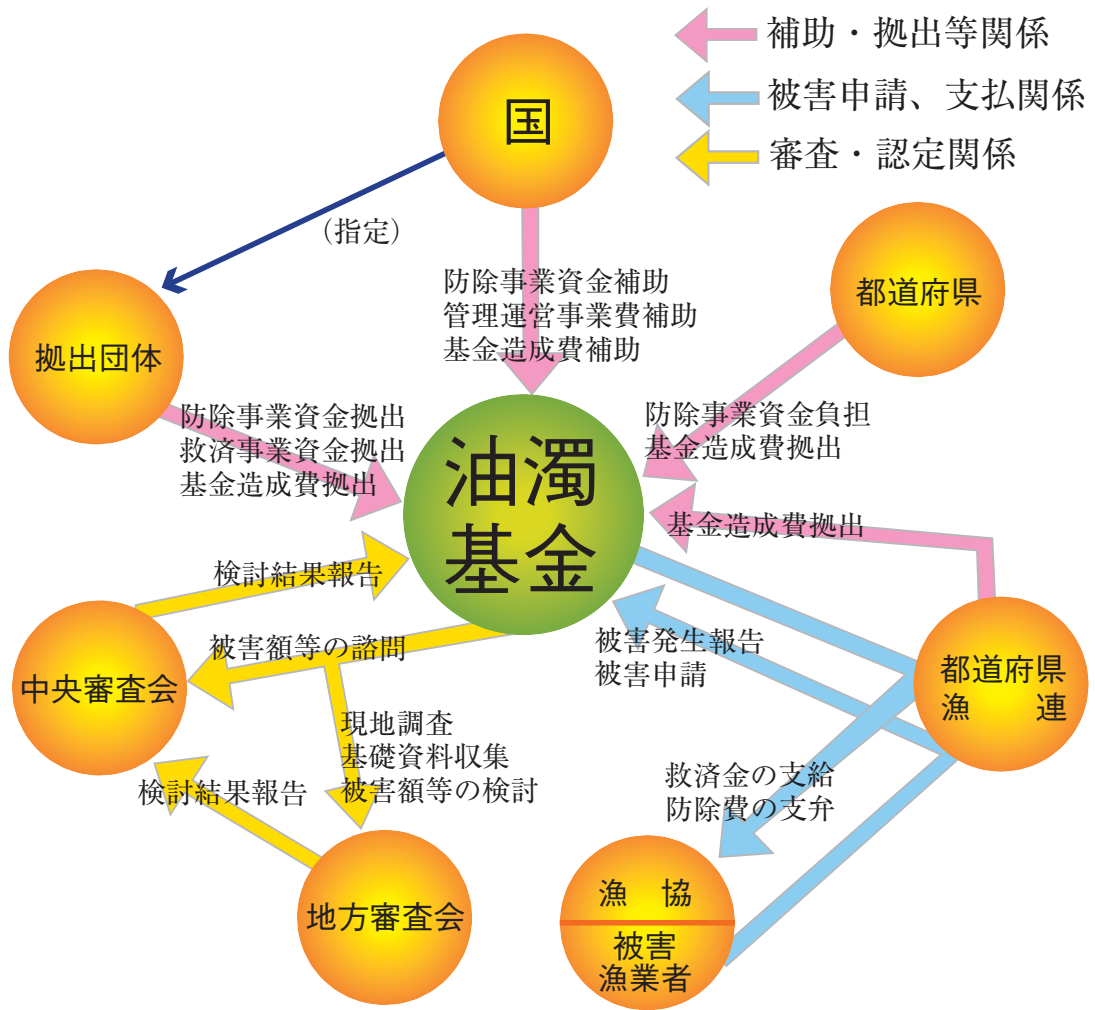


平成 20 年 11 月 18 日沖縄県宮古島市宮古島漁港で油防除講習会を行いました。
今までの講習会では最南端、海の色が印象的でした。

編集後記

- ◎ あけましておめでとうございます。旧年中も大変お世話になり、ありがとうございました。本年も油濁基金をどうぞよろしくお願い申し上げます。
- ◎ 新年号恒例「海上防災事業者・防除資機材特集」を掲載しました。今回は表をリニューアルしました。新しい資機材も掲載しております。ご協力下さった関係各社の皆様、どうもありがとうございました。
- ◎ 昨年 10 月に発生した北海道長万部における陸上タンクからの油流出事故について佐々木邦昭氏にご執筆頂きました。適切な初動により被害を最小限にとどめることができた事例です。
- ◎ 油防除資機材の法定備蓄数量の計算方法改正について、(独)海上災害防止センターの木本弘之研究室長に非常にわかり易くご執筆頂きました。
- ◎ 海上防災の道、五十年の坂本由之氏に油濁基金の講習会における記憶を辿りながらご執筆頂きました。坂本氏の記憶力および発想力の凄さには、いつも驚いてばかりでした。
- ◎ ご執筆下さった皆様、この場を借りてお礼申し上げます。ありがとうございました。

漁場油濁被害救済制度のしくみ



抛 出 団 体

農林水産省関係 経済産業省関係	(社)大日本水産会 石油連盟 (社)日本経済団体連合会 (社)日本貿易会 日本肥料アンモニア協会 (社)日本ガス協会 (社)日本船主協会 日本財団	電気事業連合会 (社)日本電機工業会 (社)日本産業機械工業会 日本化学繊維協会 日本内航海運組合総連合会	(社)日本鉄鋼連盟 (社)日本自動車工業会 石油化学工業協会 (社)セメント協会 (社)日本旅客船協会
--------------------	--	---	---

発行日 2009年1月

発行所 財団法人 漁場油濁被害救済基金

住所 〒101-0041 東京都千代田区神田須田町1-18
共同ビル6階

電話 03-3254-7033

ファックス 03-3254-3978

<http://www.yudaku.jp/>

E-mail: office@yudaku.jp